

令和 8 年度 第 1 回太良町中学校再編統合検討委員会会議録（要点筆記）

日 時 令和 8 年 6 月 24 日（水）13：30～15：10

場 所 太良町中央公民館 2 階視聴覚室

出席者 委員 17 名

大鋸委員、船口委員、大岡委員、杉崎委員、高松委員、赤木久美子委員、口山委員、松野委員、佐藤委員、上戸委員、山下委員、熊本委員、喜多委員、武富委員、森委員、西村委員、安本委員

事務局 6 名

岡教育長、羽鶴学校教育課長、岡指導主事、福田再編整備係長、吉開係員、石丸係員

欠席者 赤木一成委員

1. 開会 羽鶴課長

2. 教育長挨拶

令和 7 年度太良町教育環境整備検討委員会において、今後さらに進行する少子化を見据え中学校統合という方向性が示された。その結果を受けて、太良町は中学校統合の結論を出した。その背景には、中学生の時期に、多くの仲間や生徒・先生との関りの中で、集団生活を学び、切磋琢磨しながら成長できる環境を確保することが重要との考えがある。一定規模の学校でなければ実現が難しい教育活動もあることから、学校としての機能を十分に発揮できるような教育環境の整備が求められると感じている。この中学校統合の原点は、まさに子どもたちの成長を支える教育環境づくりである。

もう一つの背景として、太良町学校施設等個別施設計画に基づく教室棟の校舎改築の時期が迫っていることがある。2つの中学校の教室棟が、令和 10 年に築 60 年を迎える事となり、改築が必要となる。少子化が進む中、校舎改築を行う時期や財政的課題を踏まえて、中学校統合の方向性が示されたところである。

この委員会は、多良中学校と大浦中学校の学校再編統合のための会議であり、毎回が大変重い会議となると考えられる。委員の皆様には、ご負担をおかけすることになるが、この状況をご理解いただき、今後の検討内容やスケジュール等を確認していただきたい。

太良町の子どもたちにとってよりよい教育環境となるように、委員の皆様をはじめ、地域住民、保護者の皆様の声に丁寧な耳を傾け、十分な説明と対話を重ねて理解を深め、知恵を結集して進めて参りたい。多くの町民の方々のご意見・ご希望等を伺いながら、よりよい方向を見出していきたいと考えている。

3. 委嘱状交付 教育長から大鋸委員へ交付。他の委員へは事前に机上に配布。

4. 委員長及び副委員長の選任 委員長に高松謙二委員、副委員長に大岡委員を選任

5. 報告事項

(1) 太良町中学校再編検討委員会の設置について（説明 再編整備係長）

（資料）

- ・「太良町立小・中学校の教育環境の整備に関する報告書」（太良町教育環境整備検討委員会）
- ・太良町中学校再編統合検討委員会設置要綱

（質問等）

上戸委員：太良町立小・中学校の在り方に関するアンケート調査の回答率が 51.3%とあるが、この数字についてどのように考えるのか。

→このアンケートは、対象者が未就園児の保護者、園児・小中学生の保護者、区長、民生委員・児童委員、小中学校の教職委員、保育所の職員、高校生、中学生、小学 5.6 年生と学校統合に関係する方、約 1,500 名に実施した。全住民に対象とした場合 20%程度ではと想定している。回答率としては半数をこえていたため、十分な回答があったと考える。（学校教育課長）

→一般的なアンケートの回答率は、30～40%が多いと聞くんが、回答率が 50%を超えたので、皆さんに回答していただいたと判断した。（教育長）

6. 協議事項

(1) 検討項目及び今後のスケジュールについて（説明 再編整備係長）

①校舎改築計画及び統合校開校スケジュール(案)について

②検討項目及び今後のスケジュール(案)について

→①、②のスケジュールについては承認。

(2) 設置場所の検討について（説明 再編整備係長）

（資料）

- ・多良中学校、大浦中学校の比較検討資料

第 2 回で使用する資料について説明。第 2 回はこの資料を使って協議を深め、設置場所を決める方向であることを説明。

（質問等）

大鋸委員：設置場所については、タイトな検討スケジュールで進めることになっているが、検討の情報量が多いと思う。その情報をどのように皆さんに提案していくのか。昨年度の太良町教育環境整備検討委員会では町外視察を行ったが、今回は視察の計画はあるのか。書面だけでは伝わりにくい事もあるので、映像などイメージを膨らませることのできる配慮が必要ではないか。

船口委員：大浦地区の保護者は、多良中学校には実際、行った事がない。そのため、大浦地区の方が多良小中学校を実際に見る、多良地区の方が大浦小中学校を見るのもいいのではないかと考える。また、改築する予定の校舎を実際に見て、その上で検討するのはどうか。タイトな検討スケジュールではあるが、ご検討をお願い

いしたい。

→映像を使用しての説明は、現時点では考えていない。

お互いの学校を見ることは、確かに大事な事だと考える。

両校の視察は検討したい。(学校教育課長)

上戸委員 : スケジュール的に、2030年に統合となると、今の小学5年生が中学3年生の時に統合となる。中学3年生で受験を控えている事、思春期・友達関係などの懸念があると思うが、子どもたちの気持ちを大事にいただき、更にそこに携わる保護者に丁寧な説明、完全に納得のいく形にしていきたい。

→子どもたちの気持ちや新しい学校に子どもたちが馴染めるかという保護者のご心配は切実な問題だと考える。その事については、令和9年度から「新しい中学校づくり準備委員会(仮称)」を設置する予定である。スムーズに違和感なく新しい学校に馴染めるように、例えば交流事業などを行う等その方法について検討して参りたい。(学校教育課長)

高松委員長 : 中学校の校長先生に、学校現場からのご意見をお願いしたい。

武富委員 : 統合するにあたり、どこかのタイミングでそのような懸念事項は生じる事となる。それを踏まえて、事前に交流事業をし、お互いの関係性を少しずつ築いていくことが必要になるのではないか。また、片方の校舎を建て直すとなれば、建て直す中学校には、建て直し期間の2年間、子供たちにかかなりの負担がかかると思うので、いろいろな面を踏まえて、それぞれの子どもたちに寄り添う必要がある。

森委員 : それまで一緒に過ごしていない状況の子どもたちが一緒に過ごすとなれば、子どもたちの精神的な負担は大きいと思われる。

以前、赴任していた学校では、小学校段階から行事と一緒に参加し、町全体で行事を行っていた。中学校統合の前から、このような機会を増やして、お互いのコミュニケーションがとれるようにする事が大切だと考える。

高松委員長 : 小学校の校長先生からもご意見をお願いしたい。

熊本委員 : 統合時には、今の小学5年生・4年生・3年生が中学生になる年齢と思うが、小学生の段階から、いろいろな行事を一緒にするなど、2つの小学校の子どもたちが同じ活動をする時間を増やしていく事により「これから自分たちは一緒に学校で一緒に勉強していく」という意識を高めて進んでいく事になると思う。難しいところもあると思うけれども、お互いの小学校同士が歩み寄りながら、行事を一緒に計画していく事が必要になってくると考えている。

喜多委員 : 統合をスムーズに進めるためには、行事を一緒にする事が重要だと思う。例えば、現在、同じ日に実施している小学5年生の「多良岳200年の森」での植樹体験を、学校単位ではなく、両校が混ざってグループを作るなど、今ある行事から少しずつ実行していく事もできるのではないか。

武富委員 : 検討項目及び今後のスケジュールには、8月に「第3回：統合後の学校像づくり」とあるが、この時に関連の意見を出したらいいのか。例えば『学校づくりのために、このような課題がありますが、それをどうクリアしていきますか。』等は、この3回目の会議で出せばいいのか。

→「第3回：統合後の学校像づくり」というのは、骨組みにどのような課題があ

るのかを整理する事になる。学校づくりに係る具体的な事項は令和 9 年度に発足する「新しい中学校づくり準備委員会（仮称）」にて話し合いの予定である。これから具体的な柱も検討していくこととなるので、その折に学校から情報をいただく必要があれば、ご相談することになるかと思う。

「第 3 回：統合後の学校像づくり」では、具体的な内容まで深く掘り下げられないと思うので、課題を整理しておいて、その課題を「新しい中学校づくり準備委員会（仮称）」で、協議していく事になると考える。（教育長）

高松委員長：大浦中学校の高波の心配として、海拔はどのくらいなのか。また、スクールバスを運行するとなれば、多良中・大浦中の道路の状況・道幅などはどうなっているのか。そういう情報があれば、安全性を含めた形で比較しやすいのではないか。

→大浦中学校の校門には、海拔の表記があったが、今、手元に資料がないので後日報告したい。また、スクールバスは大型ではなくマイクロバスの運行を想定している。そのため、道幅等の規制にはかからないと思われる。（学校教育課長）

松野委員：子どもたちが通学するにあたって、JR・路線バス・スクールバスを使うことになれば、運行時間があると思う。例えば、それに乗り遅れた場合どうなるのか。子どもの所在確認はどうやって行えばいいのか心配である。

口山委員：通学時に、GPS 機器を持たせるのはいいのか。

→スクールバスについては、学校到着時の降車チェックと学校出発時の乗車チェックは学校の責任になると想定する。JR と路線バスについては、学校を出た後になるので、学校でのチェックは難しい。また、GPS 機器も含めて、皆さんから良い案が出るように協議をしていただきたい。（学校教育課長）

赤木久美子委員：学校への通学の心配については、（中学生でもあることから）過保護のような気がするがどうか。

口山委員：小学生ではなく中学生なので、あまり過保護にしなくていいのではないかな。生きる力や柔軟性や多様性などを育む意味では、揉まれるいい機会だなと思う。高校生になったら電車通学になる子どもが多いので、あまり心配しなくていいのではないかなと思う。

松野委員：自宅から学校まで距離があり、JR もバスも便数が減っている所以連絡手段がないと心配になる。

赤木久美子委員：通学方法については、JR・路線バス・スクールバスの 3 つから選べるという事で判断していいのか。

→通学方法については今後の検討事項となる。基本はスクールバス選択としても、今後、路線バスや JR の状況も調べる必要があるし、それに対しては実費を補助するのか、自転車通学も認めている実態もあるので、これらを含めて今後検討し、柔軟に対応するようにしたいと考えている。（学校教育課長）

口山委員：次回の委員会について、資料 7「比較検討シート」は、次回までに埋めてくるということで、間違いはないですか。

→第 2 回の会議で、グループワークを予定している。その時に、この比較検討シートを使用する。検討資料を見て、客観的に見ていただき、まとめて記入していた

できればスムーズにグループワークが進むと思うので、次回会議までに整理していただくようお願いしたい。(学校教育課長)

7. その他

山下委員 : 制服について伺いたい。新中学校が始まることになるが、制服はどうなるのか。令和 12 年度から新中学校が始まるなら、その時に 1 年生から 3 年生まで全員の制服が揃っている状態にするのであれば、令和 9 年 8 月には制服を決めないと間に合わない。
→制服の件とともに校歌なども検討事項であり、タイミングを見据えて検討したい。(教育長)

次回開催日 令和 8 年 7 月 28 日(火)13:30～ に決定

終了 15 時 10 分